



~ 5
6707
1





5
06707
1

享保二丁酉年

雞旦

言水

この海や風去記オハ元遊筆此海

友樓宅カキ燻り眩月カク 盈科

あさつとこれ芽キガミ一魚み守と 又閑

全

全

大眼の湯のやまらん水鏡

曲輪カク菽梅家ケ子ゴ五十人言水

草カ子伏カ玉カ符の春駒カ 賣カ寅カ 盈科

全

全

倫青カこカハカと朝カ子カ陽カらん堂カの

柞カ百千鳥カ雀カ同答カ 又閑

宝生カ山カ又山カハカさカあカ言水

元目

九内風ト

(2015-157)



今物用く樹ツ天比の室廣 友元
 氷様厚くくハ松皮菅 文海
 風鳥乃舌ツとかれ初産 埴動
 大箸の春やむハ乃斧ノ林存
 鶴天ノ万案躍ル世ノ越越柏柏貞恒
 立年の古今むハけハ富富郁翁
 黄金踏ハ砂の日方と物ハ寸丈
 養老の配ハ乃ハ今朝ハ一水
 在の四恩父母乃ハ咲ハ原
 けつハやハ芥ハのハ小河ハと日ハのハ白ハ圓水
 自ハ鼓ハ比ハ乃ハ福福壽壽南南都都月
 藏用ハ廊下ハくハやハ冷ハのハ鼓鼓山
 禮用ハハハ左右ハりハ撫ハ多ハりハ門ハのハ松ハ菰ハ白
 年尾
 初乃年とくハれハやハけハりハ 弥舎

三
 元と

糸ハ丸ハもハ七ハ流ハのハぬハらハむハ氷ハのハ梨ハ香
 方圓の餅城ハまハりハくハ小ハまハりハ好好寛
 めて世乃手ハ玉ハのハりハむハ元ハ井井蠟
 清士の火ハはハ消ハてハ初ハ日ハのハ元ハはハ笑ハ州
 若水乃ハすハむハ巴ハやハかハとハ山ハ栗栗津津只只牙
 年尾
 其業と調月ハくハくハやハ啄ハ木ハ鳥ハ井井槽
 蓬船の棟干軒ハやハのハ波ハ只只牙
 高季ハのハ奇ハ糸ハ文ハのハ名ハ取ハたハ文ハ海
 餅花ハでハ弄ハてハんハとハ老ハ菜ハ子ハ花ハ木
 由ハ役ハ所ハいハぬハのハるハあり
 志ハとハとハ恵ハ方
 常ハ止ハやハ恵ハ筋ハありハとハ物ハ其ハ通
 元日

東や白く声のあや織日鏡月花本
居ラ新よ遠りて

白の船 六角
表側何る口くくさるる 柳生

元旦

屠蘇よのち四海の厚味 ウレミ 散厄 盃

ひくく福よ桃の香 盆

日の永さす アヒ 雀の舌よ物

子言 思ひん花は下り

序の終て京通りぬ 豆 白

鴨門鯛茶舟よはり 藤白

水引付三

元旦

信松

義よ花袖の調子や膝 カスノコ 氷

葵海龍と右 カスノコ 氷

月宮の雨くわ み下

全

大は敵や雲の糸を氷様

正しく梅 信松

去り尾の紙 吹氷

全

月日 全

曆の次り 又下

ま 信松

茶室

新穀や斯くは似も膝キ 吟水

懐の須弥又捨るや厄拂 又下

又又み丁くけふ年未ころ 流枕

うけりまほ小店綴一太晦日 思丈

又付番中いづれは市 綾袴

元日

稱多枝迄は牙門乃松 日 綾袴

礼儀終るれは此處のちま 有畏 綾水

少細や一室主を雄花頂ふ 茶氏 皆の

綾さしおえに結や飾り了 云丈

世の儀柄よねまんけこの宿 元甲 晴暇

元日

初鶏や雌の海とまく只此酒 助水

元服乃り氣分うらとまふ 迷水氏

綾うまき誕生のるは巻のりて 助水

昔の一年も果々の積り尻 助水

月む乃余をまじくや呼ぶを 千山

算盤と白髪も他好を年は若 崇日

元日

年をやおとほくろ納り 岬戸

横へ先昇一之や松傍 千山

門下や二人接極の海を 崇日

元日

とんぼや花鬘鳥け首元後 二歌

三物

千代を捲る袖やあまの糸同福唯雄

節うさめはく井も長手尾

今後り遊糸彩り色紗綾糸

年尾

奴馬よ鞭はけ背元てなほり同福二歌

元日

三葉物やま方よ向人鞍京葉

七葉や二葉井人く伏京鉄水

橙や心一布袋の碎日婆 葉

白尾

拍栗の音もまふくは師京是 鉄

言水引付

歳旦

丹後堂山

辻氏 嵐松

破二らの矢取行よ京蜜柑

清し廣まを京鼻く京心京居京蕨 浮木

智恵の海わら京む京河京針京れ京い京き京 一色

全

全

咲やこのむ志京の京さ京む京ね京松京傍京

初日とや京さ京む京鳥京鳴京り京出京し京 嵐松

春轉京ん京ま京き京り京男京も京肥京て京 浮木

全

全

爪紅粉京り京た京無京賣京の京妬京糸

草フセの京ち京の京し京う京す京じ京長京間京 一色

まの京ふ京多京い京種京鉄京れ京表京み京き京て京 嵐松

之月

之三月のしめ己や天地人

三木氏 信美

難且

言笑のまに和ら梅の芽

波乃

南の北よりたゆまき候

後量

とみれば福もる毎のりや

西三

二

大津信や道玄初

同

とやに解らる髪鬘乃凍

波乃

汗肌をわげの暖氣の極

後量

三

まを始志の女淑や小箱細

同

推し仕出のゆき音鳥

西三

高名辰登も臆ふらみそ

波乃

子尾

本返とて鷹や休む月

後量

言水引付六

歳旦

富士かめく菌固まらるる女一巴

筆くもや不志の緑也や草一柱

今朝や程津製れ電燈方のま友志

草葉や松く拱く海老乃鬘樂之

福乃祠貴く一え方棚水

おらや赤く母冠福寿草波系

子を成程く

梅菊乃境杭かり門乃松陸程

孝長や新金銀もゆき孝丸

進合服を慥かりとのま森雲

千早振雞卵くや初日の出丹佐治情ま

若水や銀臭天澤早れ氣日西燕石

温ニコマカ敷いけ地の縁子さき始ちか一活

下戸多め笑いと唇と子男日通元

芥も世よいてや雞煮し京花燈定次

年一尾

はなみの涼こゆし玉子酒陸程

人も怪いりりし年送内吹

年ぬきもむい火煙いふ人かちか花

雞の足は下ゆえせい依治情ま

大晦日おち世ふ秤南秋君より通元

そ水引付七

元旦

和列那山
浮鴉

大福や上戸ハ酒を右左

魁カキキ流よし雲初の鞍酒祝

目より通通をぐい楊の枝酒通て

全

全

海を腰の甲ヨツビと鏡始か

粧ぶ所が樂ラクかゝり氣流鴉

まの月月地地とけ神神を新新とて酒祝

全

全

筆と取取をいゆる目の始

襟とさうじみ餅餅の縁酒ま

花の香香ハ只素も鼻か分て浮鴉

三物

和列那山

糸竹

袖曼や留玉に製て霞ヤミカツラ雲

約瓶了了法に越年の星

初奇れ鳥一發林は後迄て

三尾

全

申カヒの尻赤一常是の包紙

元日

日不

水着し今朝ハ路ちれ縁鏡

如卯

火少くや先程瑞け福壽紋

母天海
吟風

神々々々林や仏と人云

稻荷山
一夕

戸水引付八

三物

田边住

言芝

八夢れ八東の酉やまの一

え方ろり向ふ池乃幸

單角

山楸の老れかきも芽も和

風去

全

單角

福来咲柳のいまこ思を恨

文ろり目出度俵子竹年

風去

雲歌よ田螺れおごる奇ふ如

言芝

全

風去

东より出まり初の日天子

若年徳よ益ナラ入陽面

言芝

きの花先ッねらねよ興もて

單角

元日

大づやけ吉報ヲニのれ田辺佳共ト

白尾

我幾今系中谷のよき事今なり

斗系中谷の進改之と年の豆

元日

至丹波山る花如卯は神田

水中谷り鈍改之も候改之なり

心春樹や赤出改之る餅改之のお改之さ改之

神改之や改之あ改之る改之髪改之

水改之の改之九改之

享保二丁酉歳三物

試笔

丹後宮津

具依

初改之や改之雞改之も改之皮改之に改之寄改之る改之子改之也改之寅

陳改之火改之も改之赤改之ま改之い改之麟改之乃改之足改之取改之り改之 如琴

又改之さ改之す改之寸改之柳改之れ改之糸改之と改之書改之通改之り改之 思玄

其二

思玄

年改之ま改之や改之海改之ま改之の改之み改之は改之鏡改之田改之原

も改之の改之日改之ま改之さ改之く改之が改之は改之雲改之乃改之閻改之 具依

縷改之子改之木改之綿改之花改之乃改之つ改之じ改之く改之里改之は改之 如琴

其三

如琴

穂改之儀改之や改之瓊改之許改之の改之栗改之乃改之ま改之石改之の

福改之壽改之乃改之梅改之乃改之物改之乃改之東改之風改之の改之健改之 思玄

檻改之乃改之竹改之乃改之ぐ改之乃改之れ改之乃改之若改之乃改之 具依

履端

廣胖

梅の園雞卵分れて雜考うか

質斗目よ紗る腰乃白雪 省我

七十ふ指し朽る目を凝はて 渭水

祈穀

渭水

福もくや志の杖獲る八まの世

清きりふりる黒牡丹年 廣胖

柳穀志は養う飯名とくははて 省我

聖節

省我

田はくやじへ仁徳乃朝餉

霞乃由来く終白澤 渭水

榜のたう斧ぬ是見や園つん 廣胖

三水引付十

三元

歯固や鳶風定よ雨ぬき 柏舟

翠一、終佐保娘の土産 如柳

た義長れえの訪方ぬゆるて 其黄

其二

屠獲の賀や母よ青は不むの 全

まゝカッラコ髪、更の秋也賣引 柏舟

袖缸の惜く終も等とて 如柳

其三

福壽州是と胞津フイゴ囊論り 全

たる舟の多し神更れ明 其黄

蝶く車はみちやのせつと 柏舟

試毫

大福や地味さの親子系 只故
人立身如味とくけ網 乙虎
世に産く境の遊性^カをて 不朽

其二

古き松梅^知較とれ年男 全
神^行の馬志^行乃留 只故
あわらき伎をたさく陰^乙 虎

其三

得湯の白いや酉の菟^全
古き此日脚花^{不朽}番通
腫く雌雄の遊はれ者^{只故}

言水引付上

歳旦

壺春

せく^杜の種^丹をた種よ^杜りり
牡丹^杜よりりも杖乃後 拙直
春乃富^{古外}九分に月の朧^{古外}て

其二

古外

掃^羊の袖や尾とみ慣^{古外}く松の陰
そ^{壺春}の羽袖より永日乃鶴
鉄^桃柄も^桃糸生の餘力紙考吹て

其三

桃須

日の鞭や勢^桃の海馬よ小教^桃る
虎乃襟^{古外}より正平乃梅
鞆^{壺春}のる^{壺春}いづき曲^{壺春}みれ

試筆

枕流

初曆天の馭の香跡や

花の帷幕に依保の娘糊一成

重に積積の根忍之

全 え方にあたり 依浦始 忍之

墨吉之のて塵赤一年の箱

海士の衣紋も向ふ蓮葉枕流

夕けの雲摸とぬけるふゆ一成

全

一成

天地の姿やいづれ菱鏡

龍のを踏よ屠蘇の振忍之

玉柳カウラコ鬘思連の聲枕流

く水川台士

夏正

賢く仁ま七福も竹の心雉名

酒了肌ぬぐ踏青乃秋鳴翠

百千鳥うさる入巳百

其二

初震ハまは一秋はも物全

侵し皺たう今朝人のむ雉名

乾鞋も春の踏鳴翠

其三

曙よくり百里岩戸の傍全

是鶏の思耳う巳百

雨らよの跡は梅よ雉名

あふはわたり

え方とや天乃栲立るの栴

懐深

震れしをまき子に一副毛

三江

胡蝶飛ぶ草も源氏の餘り

兔五

聖節

神をや千早振世の張面鏡

全

草も柳も去無乃の能

懐深

金鼓社日の懸神くえて

三江

履端

徳もも香や栲雄の金鼓鳥

全

愛生の栲も日か那ス

兔五

雜糴ハ平まれば襟の色、

懐深

言水月付十三

果言

年の波要の餅とつまはる

山鹿

豆腐も角はうらと果言

懐深

羽衣乃曲あつて世の師走

只故

芥り以静や菓乃の栲立

兔五

ふし吉野香いね女の言や

鳴翠

結ッ

又詠浦鴻

全所知是亭

忠之

年、忘、鴻、兒、啞

岡、看、仁、德、情

雪、誠、銀、納、貢

月、蓋、萬、塗、鱗

奏、賜、江、味

射、た、く、て、る、ぬ

又朱引ともさう

年、を、お、さ、さ、さ、さ、全

足、指、の、さ、い、指、わり

茶、の、淵

三、和、引、付、十、四

享保二丁酉歲

丹陽官律

桃李軒

我眠

元辰

有、雞、の、舌、書、や、蝦、夷、の、舌、書

今、朝、も、梅、見、向、の、奴、婢

陽、向、孔、雀、の、卵、殻、席、と

全

菑、固、や、飛、強、く、棟、の、志、あり、可

可因

具、是、の、鋒、一、八、万、代、と、も

若、草、に、よ、の、代、息、流、く、も、て

全

天、地、乃、之、味、味、味、有、初、處

柳水

况、激、矣、若、あ、か、ん、あ

花、を、給、衣、柳、の、衣、れ、風、情、と

全

之初や千金買つ和奇れ因
滝津一ふ初を漱く美を
智仁勇花や合く開くと

醉石

全

けつろちま^{フエント}暖く寅の刻
あ方くくしけく梅乃を径
寫る内宴の光越して

故山

全

愛定も其名の守るを月
秋のしつと梅乃千點
蕪くくハ雲雀の天をうらむ

初雪

果業

柿周の梅を枝乃返催哉

我眼

言水引付菴

享保二酉ノ

丹宮津懐山

淑節和漢之

表白

とご板の初音^ノ寝ざりや
丁令威

山ノ海ノ樹^ノ蓬菜

苗乃菊衣裳の玉も京買て
あの森もくハちり一里也

月ノ兼^ノ鴉^ノ棒^ノ組

暁^ノ到^ノ蟪^ノ暮^ノ推

享保二丁酉

歳旦三物

時堂

其談

棹^ノ娘^ノは^ノ祇園^ノの^ノ塲^ノ離^ノ越^ノは^ノへ^ノ

今^ノを^ノ搦^ノく^ノは^ノ引^ノ元^ノ松^ノ灌^ノ木

水^ノ環^ノを^ノ其^ノ書^ノ活^ノく^ノり^ノ持^ノく^ノ耳^ノ白

二

不醒

西^ノ之^ノや^ノこれ^ノ後^ノと^ノ男^ノウ^ノ翁^ノ困

八^ノ洲^ノ乃^ノわ^ノ成^ノ破^ノ魔^ノの^ノち^ノ枝^ノ其^ノ談

花^ノも^ノを^ノ其^ノ本^ノの^ノ石^ノま^ノく^ノり^ノ吟^ノ眩

三

耳白

薬^ノ子^ノに^ノ誰^ノ氏^ノま^ノく^ノん^ノ豆^ノ腐^ノ此^ノ献

鶴^ノ此^ノう^ノま^ノひ^ノと^ノ譲^ノる^ノ俎^ノ板^ノ不^ノ醒

帆^ノ車^ノ此^ノ碇^ノ輪^ノを^ノ風^ノを^ノ拵^ノり^ノて^ノ其^ノ談

歳旦

多良河沙洲^{トハラカサ}梅^{ウメ}足^{タラシ}智^チ州^{シウ}吟^{イン}眩^{ケン}
帳^テ内^ネや大^{ダイ}黒^{コク}夜^ヤと相^{アイ}槌^{ツチ}又^{マタ} 灌^{カン}木^{ボク}
蓬^{ホウ}萊^{ライ}や童^{ドウ}男^{オトコ}化^カ女^メの^ノ坂^{サカ} 岸^キ松^{マツ}
民^{タチ}の^ノ笑^エ和^ワ之^ノの^ノ初^{ハジメ}目^メ阿^ア毛^モ人^{ヒト} 瑰^{クイ}竹^{チク}
海^{ウミ}ほえん^ンふ^フあ^アれ^レん^ン四^シ方^フ并^{ヘイ} 春^{ハル}山^{サン}

采葉

鬼^キハ 節^{フシ}分^{ワケ} 花^{ハナ}一^{ヒト}年^{ネン} 不^フ醒^{セイ}
稚^チ子^シ門^{カド}よま^マま^マ結^{ムス}羽^ハや^ヤ等^{トウ}少^シ寐^{メイ}て 灌^{カン}木^{ボク}
平^{ヘイ}塚^{ツカ}又^{マタ}祝^{イハヒ}込^コ此^{ココ}飯^{イハヒ}り^リ是^{ココ}の^ノ右^{ミダリ} 吟^{イン}眩^{ケン}
活^{カツ}東^{トウ}の^ノ洞^{ドウ}門^{カド}海^{ウミ}か^カく^ク
居^イを^ヲ祇^シ宅^{タク}を^ヲ寓^ウす
二十^{ニジュ}年^{ネン}一^{ヒト}出^デ山^{サン}逆^{サカ}死^シ脱^{ダツ}く^ク邪^{ジャ} 其^{ソノ}諷^{フウ}

享保二丁酉

漢和三物

四時堂

其諷

漸^{シブ}東^{トウ}天^{テン}一^{ヒト}笠^{カサ} 玉^{タマ}

はら^ハれ^レは^ハら^ハ傷^キ又^{マタ}糸^{イト}初^{ハジメ}の^ノ終^{ハジメ} 詔^{ミコトノコト}昔^{ムカシ}

壽^ス乃^ノ字^ジ切^キ舅^{ケイ}を^ヲ去^サれ^レ頭^{カビ}中^{ナカ}隠^{カクレ} 小^コ船^{フネ}

二

全

魁^{サキカケス}花^{ハナ} 園^{エン} 歳^シ一^{ヒト}土^{ツチ}

簪^{ヒシメ} 襟^{エリ} 宿^{ヤド} 朝^{アサ} 一^{ヒト}戎^ヤ 其^{ソノ}諷^{フウ}

八^{ヤチ}羽^ハの^ノ裾^スひ^ヒふ^フと^ト靨^{カクレ}一^{ヒト}く^ク 風^{カゼ}瀑^{フツ}

三

詔昔

来^キり^リた^タ萍^{フナ}の^ノ夏^{ナツ}を^ヲ屠^{コト}蘇^ソぬ^ヌく^ク海^{ウミ}

門^{カド}一^{ヒト}松^{マツ} 朝^{アサ}一^{ヒト}月^{ツキ} 階^{ハシ} 小^コ船^{フネ}

少^シ師^シ 鷺^{サギ} 附^{ツキ} 子^コ 其^{ソノ}諷^{フウ}

歳旦

天地の袋同久ん菊らうく 風瀑
 松ももく春成時を信受者 梅雪
 研ももく又新こがみ解 時表
 徳寺もあけ酒くと云氣分 津田
 魚好の存せさる子後家 懐童
 初賣や氣の凡のがん屋彦 我幸
 けと梅の香もく一京の西の方 海若
 吹出さやぬいころる金衣鳥 時春
 宝引や栞さうく此壳立 應信
 面白や幸此本戸押 岡伝和菟
 肩衣やあくく此松枕の底 一洞

四時堂 引附

丁酉 歳旦

ゆぐえを芳に梅乃尖々り 池柳
 燒や家勢くはせさる 湖初 危好
 長閑さや風新栞此砂渚 指水
 腹ももく改りくれ雜多子 芦舟
 東風吹く世は倚カクミくね門の松 菘々
 掛網よゆしき杉や初日新 鹿々
 明初を極うえ方此白草 葉雨

舊年

引と梅園

津田

かきつけきと

其談

名が志ま河上房の哉と云の兒

中水もめれと記すの言 芋亦
 花紅葉いの乃屋より八大三十日 指水
 海老の酒年此度よく第式 蘇夕
 川流しとわこわしぬ流き子 池柳
 いざれや松銘はして玉行 紫取
 世の仰も堪忠袋金物くろ 梅吉
 極楽依巻のちといひれも 懐童
 廻レ雪ラ 徳 舞 我幸
 鶏 節一分 剛一者 時春
 於 鬼一外 鬚一切 應信
 年云云例といふ此根未梳 東水

下酉 試筆 木因

元旦や一の秘苑此を分別

歳暮 為序跋辞 立回文格

老の善鏡の中ふ又一人

忽死くすめり予曰白松夜を
 後めて元旦とる余よ汝何合れ
 余も白松下み多る余と對せ
 存せりや

彼曰白松を注めて元旦とる余よ
 汝何合れ余も白松下み多る
 余と對して存せりや
 予曰存余の只七夜を注る余よ
 汝何合れ余も白松下のこま
 たり何を注る白松下と曰や

彼日存まの江の七巻を言ふ系
 かりし者よりとぬ白椽下の
 うらり何そあり白椽下と白や
 ぬきぬき六波怒りぬ笑ハ彼
 笑ははらり漢の棠陰比事
 及そと和の板倉竹が公は揚
 ぬいままやふと松くぬ二の
 発明あり日あり白椽下は紋ハ
 巴九かりぬる者なりハ巴右なり
 と云まては論えしなり予は
 奏て曰一編は務考り是を智
 かりと思ふなりやまふは
 ぬは只唇は音あり是を
 跡をぬきなりハや足との
 境家ハ世間の死屈と外まり
 とも室ありとも空とりハ

下西雑筆 本因

元日

五条三条ハ
 朱膳馬膳 呂千

み水は川原の橋や木具は

スミノボ
 法はあり留りて小判ハ
 焚かりのふとぬれぬはまも
 ぬむもぬれぬはまも
 倦て新玉の宝子帰スル
 その

木巴

トギマギ
 去銀を合れし眼鼻は初日

改年といふハ年の改
 細名や又年と改元謂
 あれハ

この本因

清乃こまや古撫出

里任

昨ぬ白欄下の白り
祖傳涼入を好む
常なり只さうく
かゆくとさるゆあま
又涼休ありいら童子
のいろほにほこを習ふ
そ心の傷くまかひと
よひり

己千

左様あり色いあや

花のよま

歳暮

己千

終のよあ里小舞う那

木巴

さてもあふあまをてあふ

今もを舞ひらあま

里任

其二

里任

西月あうらあまあゆのそ

隣のもも白いゆあ

己千

木巴

い暑う涼がそあ

まじあて

この本因

其二 寸光 木巴

卓散タカサ小日コヒとばトバのやノヤ大侮オホウ日ヒ

首ウタヘの字ジをシ何ナニとト思オモふフ 里任

春ハル也ニ 己午

志シ未ミ未ミ 巳午

元朝

学者ガク全ツク要ス識ス時トキ若シ不レ識ス時トキ
不レ足レ以テ言フ学ブ

座神

大福オホフクとト北キタ斗トのノ鐘カネのノ聲コエ

歳暮

野ノ々々泥ニ山ヤマ草クサ此コノ九ク月ツキ也ニ年トシ乃ハ同シ

歳旦

音木

掛カケ綱ツナとト相ア生ウ此コノ也ニにニ諸シヨ白シロ髪カミ 春ハル滿ミツ

早首

煮る海や仙家の稚煮松北風 青人
いぬ半よ洋馬にふる老の春 人角

臘盡

華候ととささえす人衣配り 民曆
とれ親に陰徳とろろ師走て寸 青人
田舎めろかき瓜都北夜煤と紀 人角
老ありか年北松風塙小鯛 東行

上日

三宅文雅

携卷須看天地量 治教融會日東春
霞披間闔舞黃鶴 氷解池邊躍紫鱗
風賜椽衣歡白息 新甘桂酒祝神人
生涯都是風塵客 白髮荷恩遇賀辰

享保丁酉年

享保二丁る年

歳暮

さしめりと掃きまきやゆけりる川上

山泉と

み氷のあらしと立ッやと船は春川上

同

慶長の令に心や々々のま布粉

ねちがれらるるにうりやと船の伏見傍雪庭

牛ぬいよ折用細きな船か白井武明

京寺町通二条上町

誹諧三物所井筒屋庄兵衛板

